03 多彩な作家たち

自然と都市が混在する街、町田。多摩丘陵の豊かな自然を求めて多くの作家が町田に居を定めた。郊外都市・学園都市として発展した町田の利便性や快適な環境が、若い学生たちを惹きつけてきた。

鶴川を終の棲家とした白洲正子。病を癒すために本町田（現・玉川学園）に移り住み、約24年を過ごした遠藤周作。町田の仕事場で旺盛な執筆を続ける森村誠一。20年間を町田で暮らし、町田市をモデルにした「まほろ駅前多田便利軒」で直木賞を受賞した三浦しをん。昨年「コンビニ人間」で芥川賞を受賞した村田沙耶香も学生時代を町田で過ごしている。世代を超えた文学が、ここには息づいている。

森村誠一（もりむらせいいち） 1933–

「高層の死角」で江戸川乱歩賞を受賞以来、推理小説、時代小説、ノンフィクションなどを手がけ、2011年には「悪道」で吉川英治文学賞を受賞。代表作は「人間の証明」「悪魔の飽食」など多数。町田市民文学館開館準備懇談会の会長も務めた。

「運命の花びら（上・下）」 KADOKAWA

赤瀬川原平（あかせがわげんぺい） 1937–2014

画家、作家。前衛的な作品を制作する傍ら、尾辻克彦名で発表した「肌ざわり」で中央公論新人賞、「父が消えた」で芥川賞を受賞。主著に「雪野」「東京路上探険記」「老人力」「日本美術応援団」など。1984年より町田市内に居住。

「父が消えた」 河出書房新社

常盤新平（ときわしんぺい） 1931–2013

早川書房で雑誌の編集長を務めたのち独立。翻訳家、エッセイストとして、いち早くアメリカ文化やニュージャーナリズムを日本に紹介した。初めて執筆した小説「遠いアメリカ」で直木賞受賞。晩年の約20年をつくし野で過ごした。

「遠いアメリカ」 講談社

赤川次郎（あかがわじろう） 1948–

「幽霊列車」でオール讀物推理小説新人賞。「三毛猫ホームズ」シリーズなどミステリー界に独自の世界を築く。著作数580冊、累計発行部数3億3千万部（2016年時点）で、日本人最多。かつて玉川学園に居住。

「三毛猫ホームズの推理」 カッパ・ノベルス

白洲正子（しらすまさこ） 1910–1998

随筆家。樺山愛輔伯爵の次女で祖父は軍人の樺山資紀。白洲次郎と結婚し、1943年に戦禍を逃れて鶴川村能ヶ谷（現・町田市能ヶ谷）に転居。日本文化に秘めた美の世界を類まれな感性と独自の視点で捉えなおし、数多くの随筆を残した。1964年「能面」で読売文学賞、1972年「かくれ里」で読売文学賞、1991年東京都文化賞を受賞。代表作に「鶴川日記」「西行」など。1997年町田市名誉市民となる。

「かくれ里」 講談社

旧白洲邸・武相荘は町田市の指定史跡

西村賢太（にしむらけんた） 1967–

「芝公園六角堂跡」 文藝春秋

「暗渠の宿」で野間文芸新人賞、「苦役列車」で芥川賞。著書に「小銭をかぞえる」「瘡瘢旅行」「東京者がたり」「蠕動で渉れ、汚泥の川を」。小6から中学時代を町田で過ごす。

阿部和重（あべかずしげ） 1968–

小説家、映画評論家。日本映画大学在学中に玉川学園に居住。代表作は伊藤整文学賞と毎日出版文化賞に輝いた「シンセミア」、三島由紀夫賞の「インディヴィジュアル・プロジェクション」、芥川賞受賞作の「グランド・フィナーレ」など。

「グランド・フィナーレ」 講談社

戌井昭人（いぬいあきと） 1971–

「のろい男 俳優・亀岡拓次」 文藝春秋

小説家、俳優、劇作家。玉川大学文学部演劇専攻卒業。代表作に「まずいスープ」「びんぞろ」「ひっ」など。「のろい男 俳優・亀岡拓次」で野間文芸新人賞受賞。

道尾秀介（みちおしゅうすけ） 1975–

小説家、推理作家。学生時代を町田で過ごす。代表作に「向日葵の咲かない夏」「シャドウ」「カラスの親指」「龍神の雨」「光媒の花」など。「月と蟹」は直木賞受賞。原案を手掛けた映画「名前」（2017年公開予定）では谷本賢一郎との音楽ユニットDENで主題歌も歌う。

「向日葵の咲かない夏」 新潮社

三浦しをん（みうらしをん） 1976–

10歳から約20年、市内に居住。2000年「格闘する者に○」で小説家デビュー。「まほろ駅前多田便利軒」で直木賞、「舟を編む」で本屋大賞受賞。小説「風が強く吹いている」「光」「あの家に暮らす四人の女」ほか、エッセイも多数。

「まほろ駅前多田便利軒」 文藝春秋・「舟を編む」 光文社

村田沙耶香（むらたさやか） 1979–

小説家。玉川大学文学部芸術文化学科卒。2003年「授乳」でデビュー。昨年、「コンビニ人間」で芥川賞受賞。代表作に「ギンイロノウタ」「しろいろの街の、その骨の体温の」「殺人出産」など。

「コンビニ人間」 文藝春秋

04 漫画家や絵本作家

日本を代表する漫画家や絵本作家たちが、町田には大勢いる。玉川学園の「のらくろ坂」を上ると田河水泡が晩年過ごした家。ブラティスラヴァ世界絵本原画展に選出されたおぼまこと、ボローニャ国際絵本原画展入選の青山邦彦も一時期を町田で過ごしている。サンケイ児童出版文化賞受賞の長谷川知子は、野津田の自然を絵本「くらやみのかみさま」に描く。多彩なアーティストたちが、独自の世界観で作品を生み出している。

田河水泡（たがわすいほう） 1899–1989

漫画家、落語作家。1928年「目玉のチビちゃん」でデビュー。代表作「のらくろ」の大ブームは社会現象に。水彩画や銅版画、随筆のほか、落語を論理的に研究した著書も多数。町田市立博物館に江戸時代から近代の戯画・漫画資料約550点を寄贈した。

「のらくろ総攻撃」 大日本雄弁会講談社（現・講談社）

みつはしちかこ 1941–

漫画家。1962年スタートの「小さな恋のものがたり」は43巻に及ぶロングセラーで1977年日本漫画家協会賞優秀賞、2015年手塚治虫文化賞特別賞、日本漫画家協会賞文部科学大臣賞を受賞。代表作に「ハーイあっこです」ほか。玉川学園に約40年居住。

「小さな恋のものがたり」 Gakken
「ハーイあっこです」 立風書房

新井洋行（あらいひろゆき） 1974–

絵本作家、玩具デザイナー。3歳から町田市在住。小川高校、東京造形大学を卒業。代表作は「れいぞうこ」「ひきだし」などの"あけて・あけてえほん"シリーズなど多数。鮮やかな色とシンプルな絵による赤ちゃん絵本には、子どもが楽しめる秘密がいっぱい。

「れいぞうこ」「ひきだし」「といれ」 偕成社

中垣ゆたか（なかがきゆたか） 1977–

「ぎょうれつ」 偕成社

イラストレーター、絵本作家。緻密なタッチで描くPOPなイラストが特徴。絵本に「ぎょうれつ」「よーい、ドン！」「UFOのつくりかた」「さがすえほんごちゃまぜ」など。現在、町田市内に在住。アーティストとして音楽活動も行う。

渡辺有一（わたなべゆういち） 1943–

「ねこざかな」 フレーベル館

絵本作家。「ねこざかな」でボローニャ国際児童図書展グラフィック賞、「はしれ、きたかぜ号」で絵本にっぽん賞、「すやすやタヌキがねていたら」で日本絵本賞受賞。絵本創作のほか、児童文学の挿絵も多く手掛ける。市内在住。

LITERARY GIANTS

協力 町田市民文学館ことばらんど　Special Thanks 神林由貴子
イラスト クロセシンゴ